

# 令和元年神田古本まつり（坤）

土屋 博

十「西郷南洲翁遺訓及遺文増補」

（鹿兒島縣社會事業協會、大正十四年四版、本文五九頁）

古書價格五百圓也。目次は一訓話、二問答、三遺教、四遺篇（漢詩・碑文）、五逸話、六遺牘（候文の手紙）なり。

十一「西郷南洲先生手抄言志録」

（鹿兒島修養團、大正十五年二版、五四頁）

古書價格五百圓也。本書は佐藤一齋の言志四録につき南洲先生の最も神契せる項目百一條を手抄したるものに、日向の秋月古香先生偶評を附す。

十二「近世名家國文新釋」山田武司著

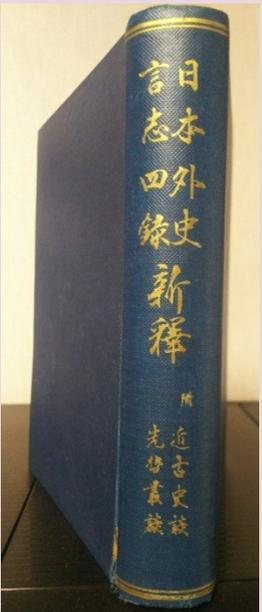
（大同館藏版、昭和三年刊、定價金五圓八拾錢、本文七二四頁）

古書價格五百圓也。上田萬年氏の序によらば、著者山田武司は、皇學館出身の篤學者にて名古屋の府立一中の教諭なる由。貝原篤信（益軒十訓より）、松尾芭蕉（奥の細道より）、室鳩巢、賀茂真淵、横井也有、三浦梅園、本居宣長、伴高蹊、上田秋成、橘千蔭、村田春海、松平定信、石原正明、藤井高尚、瀧澤馬琴、清水濱臣、橘守部、中島廣足、近藤芳樹の作品を収録す。

十三「日本外史・言志四録新釋 附近古史談・先哲叢談」中等漢文研究協會編

（莊文社、昭和十一年刊、定價壹圓八拾錢、四七七頁）

古書價格二千二百圓也。構成を見るに、日本外史百十八頁、言志四録百頁、先哲叢談百四十八頁、近古史談百十頁となれり。



十四「新制漢文解釋法 全」塚本哲三著

（有朋堂、昭和十八年四十二版、定價金二圓二十錢、五七四頁）

古書價格三百圓也。初版は昭和十六年。目次は、精察篇（百問の精讀用）、答解編（二百五十問の達讀用）、語句索引より成る。（同じ著者の「漢文解釋法」とはその材料を異とす。）

籟山陽の収録作品は、精察篇に、日本外史、日本政記、耶馬溪圖卷記、蒙古來。答解編に日本外史、

日本政記、高山彦九郎傳、上樂翁公書、耶馬溪圖卷記。

十五「教養のための基本漢字表」國語問題協議會編

(笠間書院、昭和五十五年刊、定價千六百圓、本文四三三頁)

古書價格五百圓也。土屋道雄常用漢字表改定案に基づくものなり。

十六「對句 漢詩かるた」大富部睦子・土佐林靜枝製作

(七月堂、昭和五十八年二版、定價二千四百圓)

古書價格五百圓也。昭和八年に高等女學校を卒業したる友人同士の作品。たとへば、杜甫の「國破れて山河あり 城春にして草木深し」、陶潜の「盛年重ねて來らず 一日再び晨なり難し」、漢の武帝の「秋風起つて白雲飛び 草木黃落して雁南へ歸る」など。

十七「先哲叢談」原念齋著、源了圓・前田勉譯註

(平凡社東洋文庫、平成六年刊、四七二頁)

古書價格三百圓也。函無し。芳賀徹氏曰く、東洋文庫を何冊持つかは知的レベルの尺度たらんと。

十八「蘇峰自傳」

(同志社社史資料室發行、平成七年復刻版、本文七二六頁)

古書價格千八拾圓也。復刻版あとがきによれば、一九九三年徳富蘇峰生誕百三十年記念事業の成果物なる由。原本との違ひは、總ルビなりしものを必要最小限に留め、正漢字を常用漢字に改めたる由。改惡といふほか無し。小生は革製の豪華版原本及び一般版を既に所有して居り、必ずしも購入の必要は無けれど、名著の復刻なれば稀少性は有り、直ちに購入す。蘇峰は同志社にて新島襄の教へ子。

十九「ワイド版岩波文庫 枕草子」清少納言原著、池田龜鑑校訂

(岩波書店、平成五年刊、定價千二百圓、三九二頁)

古書價格五百圓也。櫻新町にて市川浩先生の講義を受くる際、字の大きなワイド版こそ望ましかれ。ワイド版の出版部数は少なく、一般の古書價格相場は高めなり。

(令和元年十一月十八日受附)